

三重県の農林水産業の概要

特徴・取組

三重県は、南北約170kmに対し東西約80kmと南北に細長く、中央を流れる橿田川に沿った中央構造線によって、北側の内帯地域と南側の外帯地域に分けられる。内帯地域は、東に伊勢湾を望み、北西には養老、鈴鹿、笠置、布引等の山地・山脈が連なり、外帯地域の東部では、リアス海岸の志摩半島から熊野灘に沿って南下し、紀伊半島東部が形成されている。なお、外帯地域東南側の海岸地帯は、黒潮の影響で温暖な地域が広がっており、尾鷲（おわせ）市は全国でも有数の多雨地帯である。

産業別就業者数割合では、第二次産業の製造業及び第三次産業の卸売・小売業の割合が高い。また、産業別事業所数割合でみると、第三次産業では最も高い卸売・小売業の次に宿泊業、飲食サービス業が高いのも特徴の一つである。

温暖な気候や中京・阪神の大消費地に隣接した立地など、恵まれた条件のもと、世界に誇る松阪牛や伊賀牛、全国3位の生産量である伊勢茶をはじめ、米、トマト、みかん、熊野地鶏、三重サツキなど、多様な農産物が生産されている。また、匠の技と地域の特性を生かした農産物の数々は、国内外で高く評価されている。

温暖な気候と豊富な降水量に恵まれた環境のもと、県土の64%を占める森林において、スギ、ヒノキを中心とした木材生産が行われている。豊富な森林資源が利用期を迎えていることや、2050年カーボンニュートラルの実現に向け森林への期待が高まっていることから、森林・林業・木材産業による「グリーン成長」を掲げ、森林資源の循環利用を推進し、森林の持つ多面的機能を高度に発揮させる取組を進めている。

農林水産業を持続可能な産業として発展させるため、県産農林水産物の国内外における販売チャンネルの拡大やブランド化等による高付加価値化、輸出促進に向けた産地づくり等の販路拡大に取り組んでいる。

主な農林水産物

ばらのり（養殖）

南勢地域を中心に養殖。収穫量は全国の約6割を占める。（収穫量全国1位）



いせえび

南勢地域を中心に漁獲。漁獲量は全国の約1割を占める。（漁獲量全国2位）



なばな

北勢地域を中心に生産。主に葉茎を食用とする。収穫量は全国の約3割を占める。（収穫量全国1位）



かたくちいわし

北勢・中勢・南勢地域の伊勢湾を主な漁場とする。（漁獲量全国7位）



真珠（養殖）

真珠養殖発祥の地。南勢地域を中心に養殖され、収穫量は全国の約2割を占める。（収穫量全国3位）



茶

北勢・中勢地域を中心に生産。かぶせ茶の生産は有名。荒茶の生産量は全国の約1割を占める。（荒茶生産量全国3位）



サツキ

北勢地域を中心に生産。出荷量は長年にわたり全国一を誇っており、全国の約6割を占める。（出荷量全国1位）



小麦

北勢・中勢・南勢を中心に生産。「伊勢うどん」の原料粉として評価が高い「あやひかり」が有名。（収穫量全国8位）



みかん

東紀州・南勢地域を中心に生産。特に御浜町（みはまちょう）は柑橘類が通年収穫できる町として有名。（収穫量全国9位）

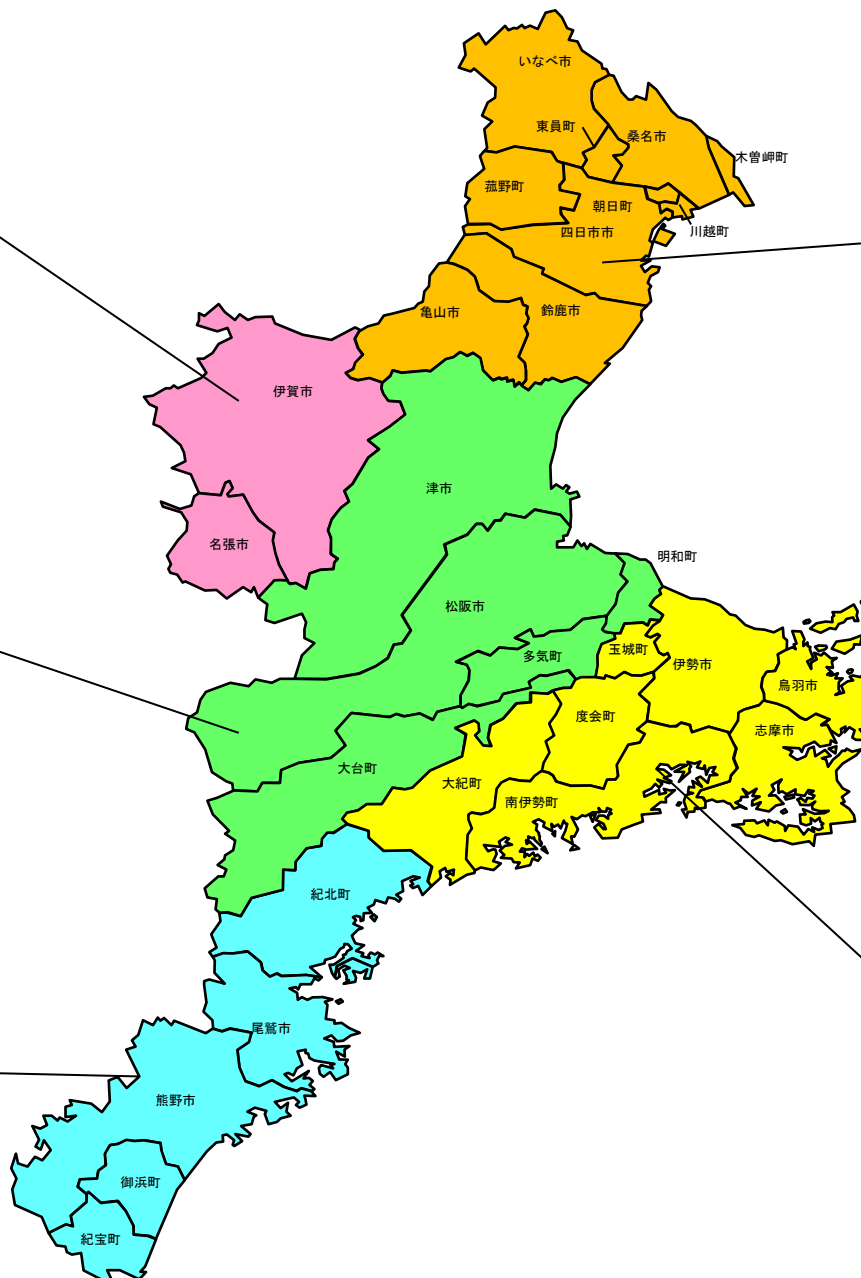


肉用牛

北勢・中勢・南勢・伊賀地域を中心に生産。松阪牛・伊賀牛はブランド牛として有名。（飼養頭数全国23位）



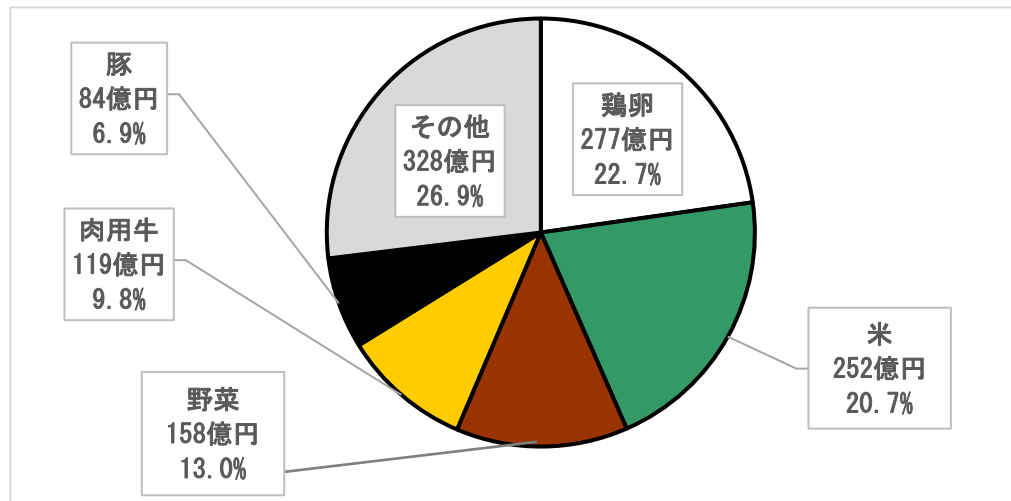
三重



三重県の農業（１）

- ・農業産出額は1,218億円で全国29位。うち米が252億円（20.7%）、野菜が158億円（13.0%）、畜産が584億円（47.9%）。
- ・農畜産物の生産状況は、サマーフレッシュ、さつき、なばな（葉茎）が全国１位、茶（荒茶）（主産県）、観葉植物（鉢もの類）、セミノールが３位。

農業産出額の概略



農畜産物の生産状況

区 分		年次	三 重 県	全 国	全国順位
小麦	収穫量	R6	18,800 t	1,029,000 t	8
茶（荒茶）（主産県）	生産量	R6	5,020 t	66,900 t	3
みかん	収穫量	R5	16,300 t	681,600 t	9
うめ	収穫量	R6	1,460 t	95,500 t	5
観葉植物（鉢もの類）	出荷量	R5	3,580 千鉢	40,900 千鉢	3
肉用牛	飼養頭数	R6	31,400 頭	2,672,000 頭	23
サマーフレッシュ（かんきつ類）	収穫量	R4	60 t	60 t	1
セミノール（かんきつ類）	収穫量	R4	373 t	2,426 t	3
サツキ	出荷量	R4	1,940 千本	3,070 千本	1
なばな（葉茎）	収穫量	R4	371 t	1,360 t	1

出典：「作物統計」、「果樹生産出荷統計」、「花き生産出荷統計」、「畜産統計」、「特産果樹生産動態等調査」、「花木等生産状況調査」、「地域特産野菜生産状況」

農業産出額のデータ

区 分	三重県の農業産出額	全国の農業総産出額	全国順位
農業産出額	1,218 億円 (100.0)	94,952 億円 (100.0)	29
米	252 億円 (20.7)	15,193 億円 (16.0)	22
麦類	16 億円	678 億円	8 *
雑穀	0 億円	77 億円	34
豆類	5 億円	572 億円	18
いも類	8 億円	2,301 億円	25
野菜	158 億円 (13.0)	23,243 億円 (24.5)	36
果実	68 億円 (5.6)	9,590 億円 (10.1)	33
花き	40 億円	3,522 億円	30
工芸農作物	36 億円	1,467 億円	8
その他作物	39 億円	585 億円	4 *
畜産	584 億円 (47.9)	37,212 億円 (39.2)	18
肉用牛	119 億円	7,696 億円	21
乳用牛	81 億円	9,249 億円	19
生乳	76 億円	8,310 億円	21
豚	84 億円	7,194 億円	23
鶏	299 億円	12,033 億円	17
鶏卵	277 億円	7,413 億円	11
ブロイラー	16 億円	4,471 億円	30 *
その他畜産物	0 億円	1,041 億円	43
加工農産物	14 億円	513 億円	8

出典：「令和5年農業総産出額及び生産農業所得（全国）」、「令和5年農業産出額及び生産農業所得（都道府県別）」
注：（ ）は農業総産出額及び農業産出額を100%とした割合である。

都道府県の農業、林業、漁業の表の見方

・令和7年3月31日時点における最新の統計等の公表データを使用

・表中に使用した記号は次のとおり

「O」：単位に満たないもの（例：0.4t→0t）

「－」：事実のないもの

「…」：調査を欠くもの

「x」：秘密を保護するため統計数値を公表しないもの。

「*」：秘密を保護するため統計数値を公表していない都道府県を除いた順位

三重県の農業（ 2 ）

- ・耕地面積は5万5,700haで全国24位。うち田が4万2,600ha、畑が1万3,100ha。
- ・農業経営体数は1万8,804経営体で全国27位。うち法人経営体が533経営体で28位。
- ・認定農業者数は2,086経営体で全国32位。うち法人数が516法人で25位。
- ・農業生産関連事業は、農家レストランの年間販売金額（売上）が18億円で全国2位、事業体数は20事業体で21位。

耕地面積

区 分	三 重 県	全 国	全国順位
耕地面積	55,700 ha	4,272,000 ha	24
田	42,600 ha	2,319,000 ha	19
畑	13,100 ha	1,952,000 ha	29
普通畑	7,790 ha	1,118,000 ha	27
樹園地	5,270 ha	248,600 ha	13
牧草地	26 ha	585,900 ha	44
参考）総土地面積	5,774.48 km ²	377,975.68 km ²	25

出典：「令和6年耕地面積（7月15日現在）」、「令和7年全国都道府県市区町村別面積調（1月1日時点）」（国土交通省国土地理院）

荒廃農地面積

区 分	三 重 県	全 国	全国順位
荒廃農地面積	5,890 ha	256,676 ha	20

出典：「令和5年度の荒廃農地面積（令和6年3月31日現在）」

農業経営体数、総農家数及び集落営農数

区 分	三 重 県	全 国	全国順位
農業経営体数	18,804 経営体	1,075,705 経営体	27
法人経営体	533 経営体	30,707 経営体	28
総農家数	33,530 戸	1,747,079 戸	25
販売農家	18,062 戸	1,027,892 戸	27
参考）世帯総数	742,598 世帯	55,830,154 世帯	22
集落営農数	288 集落営農	13,998 集落営農	21

出典：「2020年農林業センサス（令和2年2月1日現在）」、「令和2年国勢調査」（総務省統計局）、「令和6年集落営農実態調査結果（令和6年2月1日現在）」

担い手への農地の集積状況

区 分	三 重 県	全 国	全国順位
担い手への集積面積	25,957 ha	2,593,345 ha	24
集積率	46.0 %	60.4 %	18

出典：「農地中間管理機構の実績等に関する資料（令和5年度版）」

基幹的農業従事者数及び認定農業者数

区 分	三 重 県	全 国	全国順位
基幹的農業従事者数	18,819 人	1,363,038 人	33
男	12,218 人	822,144 人	29
女	6,601 人	540,894 人	36
65歳以上	15,258 人	948,621 人	29
基幹的農業従事者数に対する65歳以上割合	81.1 %	69.6 %	-
国、市町村認定及び都道府県認定経営体数	2,086 経営体	216,784 経営体	32
法人数	516 法人	29,128 法人	25
参考）人口総数	1,770,254 人	126,146,099 人	22

出典：「2020年農林業センサス（令和2年2月1日現在）」、「認定農業者の認定状況（令和6年3月末現在）」、「令和2年国勢調査」（総務省統計局）

農業生産関連事業の年間販売（売上）金額及び事業体数

区 分	三 重 県	全 国	全国順位
農産加工	総額 28,544 百万円 事業体数 720 事業体	999,786 百万円 27,760 事業体	13 12
農産物直売所	総額 25,277 百万円 事業体数 350 事業体	1,126,420 百万円 21,240 事業体	18 26
観光農園	総額 1,290 百万円 経営体数 50 経営体	37,281 百万円 5,050 経営体	11 26
農家民宿	総額 210 百万円 経営体数 10 経営体	5,352 百万円 1,140 経営体	7 * 26
農家レストラン	総額 1,837 百万円 事業体数 20 事業体	39,434 百万円 1,360 事業体	2 * 21

出典：「令和5年度6次産業化総合調査結果」

三重県の林業

- ・林業産出額は97.3億円で全国15位。うち木材生産が43.4億円、栽培きのこ類生産が52.8億円。
- ・林産物の生産状況は、素材生産量が全国21位。ひのきが全国9位、ひらたけが5位、なめこ、エリンギが6位。

林業産出額

区 分	三 重 県	全 国	全国順位
林業産出額	97.3 億円	5,562.5 億円	15
木材生産	43.4 億円	3,257.0 億円	20
栽培きのこ類生産	52.8 億円	2,199.2 億円	7

出典：「令和5年林業産出額」

林産物の生産状況

区 分	三 重 県	全 国	全国順位
素材生産量	332 千m ³	20,647 千m ³	21
針葉樹	320 千m ³	18,926 千m ³	20 *
すぎ	180 千m ³	11,917 千m ³	18
ひのき	138 千m ³	3,180 千m ³	9 *
広葉樹	12 千m ³	1,721 千m ³	25 *
なめこ	生産量 1,047 t	23,752 t	6 *
ひらたけ	生産量 87 t	4,372 t	5 *
エリンギ	生産量 269 t	35,793 t	6 *
たけのこ	生産量 258 t	16,528 t	11 *

出典：「令和5年木材統計」、「令和5年特用林産基礎資料」

林野面積

区 分	三 重 県	全 国	全国順位
林野面積	371,034 ha	24,770,201 ha	24
国有林	22,171 ha	7,153,338 ha	32
民有林	348,863 ha	17,616,863 ha	20
人工林面積	229,825 ha	10,133,111 ha	15

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」

林業経営体数

区 分	三 重 県	全 国	全国順位
林業経営体数	527 経営体	34,001 経営体	24
法人経営体	78 経営体	4,093 経営体	19

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」

製材工場数

区 分	三 重 県	全 国	全国順位
製材工場数	160 工場	3,749 工場	3
製材用素材の入荷があった工場数	160 工場	3,722 工場	3
国産材のみ	155 工場	3,116 工場	2
国産材と輸入材	3 工場	511 工場	35

出典：「令和5年木材統計」

三重県の漁業

- ・ 漁業産出額のうち、海面漁業・養殖業産出額は437億円で全国10位。
- ・ 水産物の生産状況は、海面漁業のいせえびが全国2位、海面養殖業のばらのりが1位、真珠が3位、内水面養殖業のうなぎが5位。
- ・ 漁業生産関連事業は、水産加工の年間販売金額（売上）が124億円で全国2位、事業体数は30事業体で10位。

漁業産出額

区 分	三 重 県	全 国	全国順位
海面漁業・養殖業産出額	437 億円	15,265 億円	10
海 面 漁 業	228 億円	9,534 億円	12
海 面 養 殖 業	209 億円	5,731 億円	11

出典：「令和5年漁業産出額」

漁業経営体数

区 分	三 重 県	全 国	全国順位
海面漁業経営体数	2,286 経営体	65,662 経営体	9
内水面漁業経営体数	30 経営体	4,076 経営体	34

出典：「2023年漁業センサス(令和5年11月1日現在)」

漁業就業者数

区 分	三 重 県	全 国	全国順位
海面漁業就業者数	4,220 人	121,389 人	8
男	3,332 人	109,757 人	10
女	888 人	11,632 人	4

出典：「2023年漁業センサス(令和5年11月1日現在)」

漁船隻数

区 分	三 重 県	全 国	全国順位
漁船隻数	5,030 隻	109,283 隻	4
動力漁船	2,316 隻	58,906 隻	7

出典：「2023年漁業センサス(令和5年11月1日現在)」

水産物の生産状況

区 分	三 重 県	全 国	全国順位
海面漁業・養殖業生産量	71,380 t	3,777,921 t	16 *
海面漁業漁獲量	52,275 t	2,926,411 t	15
かたくちいわし	7,929 t	112,867 t	7
いせえび	148 t	1,090 t	2
海面養殖業収穫量	19,105 t	851,509 t	15 *
ばらのり	3,816 t	6,710 t	1
真珠	2,013 kg	12,298 kg	3
内水面漁業・養殖業生産量	444 t	51,908 t	16 *
内水面漁業漁獲量	185 t	21,567 t	9
しじみ	181 t	9,211 t	6
内水面養殖業収穫量	259 t	30,341 t	18 *
うなぎ	246 t	18,341 t	5

出典：「令和5年漁業・養殖業生産統計」

漁業生産関連事業の年間販売（売上）金額及び事業体数

区 分	三 重 県	全 国	全国順位
水産加工	総額 12,428 百万円 事業体数 30 事業体	179,159 百万円 1,220 事業体	2 * 10
水産物直売所	総額 1,284 百万円 事業体数 10 事業体	34,988 百万円 810 事業体	8 * 20
漁家民宿	総額 419 百万円 経営体数 30 経営体	5,389 百万円 540 経営体	3 * 3
漁家レストラン	総額 426 百万円 事業体数 20 事業体	13,249 百万円 380 事業体	11 * 4

出典：「令和5年度6次産業化総合調査結果」

三重県の農林水産業の話題等（１）

新規就農者の確保・育成に向けた取組

【農業スタートアップを応援する取組】

新規就農時に課題となる農地の確保を支援するため、新規就農希望者や農業参入を希望する企業等を対象に「みえ農業ビジネスプランコンテスト」を開催。

コンテストの優秀提案者に対しては、農地中間管理事業を活用して優先的に農地の貸付を行うほか、関係機関等と連携して経営の相談に対応するなど、優秀提案者がプランを実現し継続できるよう支援を行っており、新規就農者の安定的な確保・育成につなげている。

【販売戦略の策定を支援する取組】

経験が少なく経営が不安定になりがちな、独立・自営による新規就農者等の早期の経営安定化を図るため、熟練農業者である「みえの就農サポートリーダー」が販売戦略等について、実践的な取組の研修や相談に対応する体制を整備することで、新規就農者の育成および定着につなげている。



みえ農業ビジネスプランコンテスト



販路や販売戦略をアドバイス

非住宅建築物への木材利用促進の取組

【木造非住宅設計支援】

県内における建築物の木造率については、住宅が約８割であるのに対して、非住宅分野においては１割程度と低い状況であり、林業・木材産業の成長産業化に向けた新たな木材需要を創出するためには、非住宅分野における木材利用を進めることが重要である。

このため、県内の非住宅建築物における木材の需要拡大を目指して、木造非住宅建築物の建築主に対し、設計にかかる費用の支援を実施している。

【みえの木建築コンクール】

県内の住宅及び非住宅に県産材を目に見える形で活用した、優良な建築物の施主及び設計・施工に関わった者を表彰するコンクールを実施し、良質な県産材の使用事例をPRすることで、建築物における県産材の利用拡大及び木づかいの気運醸成に取り組んでいる。



第３回みえの木建築コンクール
非住宅部門最優秀賞
三重県立特別支援学校寄宿舎



第３回みえの木建築コンクール
非住宅部門 受賞者のみなさん

三重県の農林水産業の話題等（２）

持続可能な魚類養殖を実証

【持続可能な魚類養殖の実現を目指し「シン層飼育」の効果を実証】

高水温化に伴う魚病被害の増加や飼料費高騰に伴う生産コストの増大等、県内の魚類養殖は深刻な状況である。

このため、魚病被害の軽減や生産コストの削減、新たな漁場開拓が期待される「シン層飼育」※の県内での普及に向け、県内モデル地区において浮沈式いけすを導入し、飼育試験に取り組み、「シン層飼育」の効果を実証する。

※「シン層飼育」とは、深い水深層、新しい水深層での飼育、という意味の造語。



組立て作業中の
浮沈式いけす



試験のために
いけすに導入されたマハタ

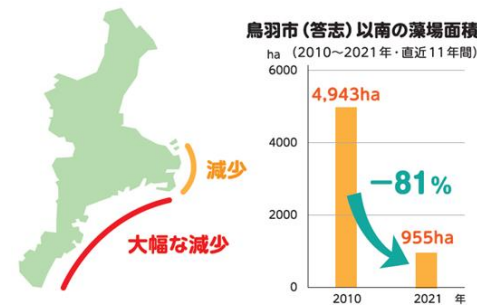
アイゴ等植食性魚類の有効活用に向けた取組

【「低利用魚」から地域資源へと価値を向上させるとともに、活用（消費）拡大に向けた意識醸成】

近年、海水温の上昇等によるアイゴやブダイといった植食性魚類の増加に伴い、水産資源の生育の場である藻場（海藻の群落）が減少する「磯焼け」が進行している。

このため、こうした植食性魚類を有効活用し、一次加工品等の開発や活用先の開拓を行うことで、「低利用魚」から地域資源へと価値を向上させるとともに、「食べる環境対策」につなげる。

また、今後は、県内の高校や食関連企業と連携し、高校生の柔軟な発想を生かした新たな商品等の開発に取り組むとともに、SNS等を活用した情報発信や大都市圏における展示商談会への参加等により消費拡大に向けた意識醸成を図る。



藻場の現状



アイゴを利用した加工品